

令和7年度

**「運営に関する計画」  
最終評価**

**大阪市立旭東幼稚園**

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

今年度も園の特色である小規模でアットホームな雰囲気を生かした異年齢の交流を取り入れ、人とのふれあいを大切にしたい取組を継続していきたい。

安全・安心な教育の推進では、今年度は特に保護者の方と一緒に安全について考える機会をもてるように年間を通して内容を検討していきたい。集団生活のルールの大切さに気づき規範意識が高まっていますかという目標では、特に、人の話に興味をもち、集中して最後まで聞こうとする態度を育めるように保育内容を検討していきたい。人の話を聞くというのは、人との関わりにおいても重要なポイントであると考えている。一人一人が安心して自己発揮して遊べる環境を整えることが安全な生活にもつながると考え取り組んでいきたい。

未来を切り開く学力・体力の向上では、いろいろな友達と関われるように年間を通して異年齢活動を取り入れた保育内容を工夫していくことで、進んで人と関わる力が育まれることにつながるようにと願っている。健康につながる規則正しい生活習慣を身に付けるためには、保護者との連携が不可欠である。幼稚園での保健指導を保護者の方と共有し、連携して取り組んでいきたいと考えている。

学びを支える教育環境の充実では、地域や保護者に開かれた幼稚園づくりを推進するために、幼稚園の教育や取組を分かりやすく伝えるための方法を工夫していきたい。そのためには、教員の資質向上を図り、幼児教育をしっかりと発信できるようにするのが課題である。また、地域の学校園所や未就園児との関わりもいろいろな状況を踏まえ、行事の見直しを図りながら内容を工夫して実施していくのが課題である。子どもたちが地域の中で生活しているという意識が高まるように地域の方との連携も大切に取り組んでいきたいと考えている。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度までの保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。
  - ・「お子様は、生活の中で安全に対する意識が高まっていますか」
  - ・「集団生活の中で、ルールの大切さに気づき、規範意識が高まっていますか」
  - ・「幼稚園で伸び伸びと遊び、自己発揮をしながら幼稚園生活を楽しいと感じていますか」

#### 【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 令和7年度までの保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。
  - ・「お子様は、まわりの人に進んで関わる力が育まれましたか」
  - ・「互いのよさに気づき相手を思いやる気持ちが育まれましたか」
  - ・「友達と関わる中で、考えたり工夫したりして一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」
  - ・「自分の健康に関心をもつようになりましたか」

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度までの保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。
  - ・「地域や保護者に開かれた幼稚園づくりに努めていますか」
  - ・「幼稚園の教育を分かりやすく伝えていきますか」

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 学校園の年度目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 本年度の保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。
  - ・「お子様は、生活の中で安全に対する意識が高まっていますか」
  - ・「生活の中で、人の話に興味をもち集中して最後まで話を聞こうとしていますか」
  - ・「幼稚園で伸び伸びと遊び、自己発揮をしながら幼稚園生活を楽しいと感じていますか」

#### 【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 本年度の保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。
  - ・「お子様は、まわりの人に進んで関わる力が育まれましたか」
  - ・「互いのよさに気付き相手を思いやる気持ちが育まれましたか」
  - ・「友達と関わる中で、考えたり工夫したりして一緒に遊ぶことを楽しんでいきますか」
  - ・「自分の健康に関心をもつようになりませんか」

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 本年度の保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。
  - ・「地域や保護者に開かれた幼稚園づくりに努めていますか」
  - ・「幼稚園の教育を分かりやすく伝えていきますか」

## 3 本年度の自己評価結果の総括

- 年度目標では、全ての項目で目標を達成することができた。また、4年間取り組んできた中期目標も達成することができた。

#### 【安全・安心な教育の推進】

- ・年間計画に基づき、計画的に色々な災害を想定して避難訓練を実施することができ、保護者とも連携して意識を高めることができた。
- ・今年度は特に話を聞くという視点に着目した規範意識で取り組んできたが、まだ、いろいろな場面で課題がある。今後も引き続き効果的な指導方法を検討して取り組んでいきたい。
- ・幼稚園を楽しいと感じているのは、100%で評価できる。今後も安心して伸び伸びと自己発揮して楽しめるように、子どもたちの思いを受け止め、全教職員で連携して取り組んでいきたい。

#### 【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・本園の特色である異年齢交流を継続的に工夫して進める中で、人と関わる力や思いやりの気持ちが育まれてきた。今後も計画的に内容を検討して進めていきたい。
- ・子どもたちが主体的に考えたり、工夫したりして遊びを進めていけるように環境構成を工夫したり、教育的意図をもった働きかけを検討したりすることで、より遊びが深まり、協同して遊ぶ楽しさにつながったと言える。
- ・毎月の保健指導は子どもたちだけでなく、保護者にも内容を伝え共有していくことで、連携して取り組むことができ、効果的であった。継続して取り組むことで、より自分の健康に関心がもてるようになった。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・保護者に教育内容を分かりやすく伝えられるように、降園連絡やクラスだより、写真掲示などで、具体的に伝えられるように努めた。地域の方への発信方法が今後の課題である。
- ・保護者の方にも参観してもらったり、一緒に体験してもらったりできるように、行事の内容を見直し工夫した。感動体験を共有することで、教育内容を実感してもらえらる機会になった。

大阪市立旭東幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b>  <b>学校園の年度目標</b>                      ○本年度の保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。                      ・「お子様は、生活の中で安全に対する意識が高まっていますか」                      ・「お子様は、人の話に興味をもち集中して最後まで話を聞こうとしていますか」                      ・「幼稚園で伸び伸びと遊び、自己発揮をしながら幼稚園生活を楽しいと感じていますか」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全・安心な教育の推進】                      ・学校安全計画に基づき、身を守る意識を育てるための安全教育を行う。</p> <p>指標                      ・年間計画を立て、安全に対する意識を高められるような指導をする。（別紙1）</p>	A
<p>取組内容②【施策2 豊かな心の育成】                      ・生活の中で人の話に興味をもち、集中して最後まで聞こうとする態度を育む。</p> <p>指標                      ・毎月、幼児の実態について話し合い、効果的な指導方法を工夫する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 豊かな心の育成】                      ・伸び伸びと遊び、自己発揮ができるような環境を整える。</p> <p>指標                      ・月1回以上、季節に応じた遊びができるように話し合い、環境を整える。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

**【年度目標】**

◎関連する保護者アンケート調査（最終評価）では、目標を達成することができた。  
 肯定的な回答抜粋（％）

項目	肯定的な回答抜粋（％）	
	そう思う	やや思う
お子様は、生活の中で安全に対する意識が高まっていますか	86	9
幼稚園は、生活の中で、子どもが安全を意識するように指導していますか	90	5
お子様は、生活の中で人の話に興味をもち、最後まで話を聞こうとしていますか。	59	27
お子様は幼稚園生活を楽しいと感じていますか	100	
お子様は幼稚園で、伸び伸びと自分の思いを出して遊んでいますか	95	
幼稚園はお子様伸び伸びと遊び、自己発揮ができるような環境を整えていますか	90	5

### 取組内容①

○年間計画に沿って、計画的に実施することができた。(別紙1)

火災・地震・防犯と、災害発生時の行動が混乱しやすい可能性があるため、その都度、放送をよく聴くよう声掛けし、訓練に適した避難方法や約束を丁寧に伝えた。振り返りでは、行動を思い出しながら、避難時に困ったことや心情などを伝え合った。指導者の話を最後まで聞くことや、自分の身を守るために素早く安全に行動することなど、皆で改めて確認することで、子ども自身が安全に対する意識を高められる機会となった。保護者が参加できる機会を複数回設けることで、家庭でも災害に意識を向けるきっかけとなり、安全教育に繋がった。

### 取組内容②【施策2 豊かな心の育成】

◎毎月、幼児の実態について共通理解を図り、人の話に興味をもって最後まで聞こうとする態度を育めるように指導方法を話し合い工夫することができた。

○4月

- ・個々の幼児の実態を教職員間で共有し、一人一人に寄り添った保育を心がけられるよう保育の中での日々の気付きを伝達し合い、話を聞く態度や環境について考えた。椅子に座る向きや位置を考え、落ち着いて過ごせるような環境づくりに努めた。
- ・園庭の遊具では、安全な遊び方やルールを教師が手本となり実践したり、避難訓練では、幼児が分かりやすく見通しをもって過ごせるように絵カードや表示を活用したりした。活動の内容に関心をもって、落ち着いて行動する姿も見られた。
- ・幼児たちが興味をもって絵本の読み聞かせを継続的にを行い、始める前には手遊びをして興味をもち、落ち着いて話が聞けるように工夫した。

○5月

- ・こどもの日の集いでは、好きなこいのぼりに乗って園庭を散歩したり、こいのぼりに向かってかけっこをしたり、体操など体を動かして遊ぶ中で、由来を知ったり異年齢でこいのぼり製作を見せ合ったりとこどもの日にちなんだ内容を取り上げることで興味をもって話を聞くことができた。
- ・当番活動やインタビューごっこを行うことで、友達が前に出て話をしてる姿に刺激を受け、自分の番を楽しみにするようになった。繰り返し活動する中で、当番をする友達にも興味をもち、話を聞こうとする姿が見られるようになった。

○6月

- ・夏祭りの取組では、繰り返し遊ぶ中で話し合いをする場をもち、遊びに必要なものや遊びが楽しくなるような工夫を子どもたちと一緒に考えた。友達の意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりしながら、お店屋さんごっこのルールを決めていく姿も見られた。

○7月

- ・プール開きでは、安全に遊ぶための約束事を教師が実演しながら丁寧に知らせ、水の事故から命を守る大切さを伝えた。話だけでなく、実演することで約束を分かりやすく、
- ・1学期の振り返りをした時には、楽しかったことや印象に残っていることを自分なりの言葉で表現したり、友達の考えを聞いたりすることができ、2学期に期待をもつことができた。

○8・9月

- ・夏休み明けの園生活のリズムを取り戻すために、戸外や遊戯室をうまく使い分けながら、遊んだり体を動かしたりしながら、メリハリをつけて活動する中で、集中して話を聞くことができた。
- ・絵本の会やまっちゃんのつながり遊び、敬老の集いなど、いろいろな人と関わり、親しみをもって話を聞くことができた。

○10月

- ・リレー遊びでは、走る前にチームで話し合ったり、振り返りで友達の意見に耳を傾けたりしながら、どうすれば勝つことができるかなどを自分たちで一緒に考えて話し合う機会をもった。

○11月

- ・作品展に向けて、共通のテーマをもって、イメージを膨らませることができるよう、年少児・年長児で興味をもった話を取りあげた。

- ・年長児は、ペープサートを用いて『エルマーの冒険』の長い話を分かりやすく読み聞かせる工夫をした。運動会でお話の世界で遊んだ経験をもとにみんなで考えを出し合い、共通のイメージを共有していった。
- ・年少児はごちそうごっこが好きで日頃からいろいろな食べ物をつくって遊んできた。その経験から世界の料理に興味をもち、世界地図や世界の様々な料理が出てくる絵本を見たり読んだりして、作品展に向けてどんな料理をつくりたいかを話し合った。担任や友達の意見を聞き、その意見を取り入れることでつくる楽しさが広がるという経験につながり、意見を出し合うことの面白さに気が付いた。

○ 1 2 月

- ・いろいろな絵本を読み、夢を広げながら、お楽しみ会に向けての話し合いを進めることができた。サンタクロースへの手紙を書くことで、文字にも関心をもつことができた。

○ 1 月

- ・鏡開きでは、「なぜ鏡開きをするのか」という昔からの由来を、実際 12 月につくった鏡餅を前に子どもたちが理解しやすいように丁寧に説明をした。鏡餅と一緒に飾っている橙や干し柿、昆布の意味なども実物を手に取って話をした。実際に飾っている物を見ることで子どもたちも集中して話を聞くことができ、興味や関心をもつ姿へとつながった。
- ・年長児のお正月遊びでは、『あけましておめでとうございますカルタ』をつくったり、昨年度に開かれた大阪万博の影響もあり、世界地図や世界の絵本、国旗トランプの教材を準備したりすると、文字や数字、国旗に関心をもって世界の国の挨拶や特色について調べる姿があった。タブレットなどの視覚教材も用いることでより集中して取り組むことができた。

○ 2 月

- ・年長児はいろいろな絵本を読み聞かせる中で子どもたちが興味をもった話を取りあげ、劇遊びをした。視覚的にもものがあることでよりイメージを広げたり膨らませたりして、お話の世界でなりきって、セリフや動きを考えることができた。
- ・年少児はよりお話の世界に興味をもつことができるように、表現遊びをした。表現遊びをする中で、相手の話を聞いたり、自分のセリフを言ったりし、やりとりを楽しむことで、友達の話最後まで聞いて、自分の思いを伝えようという気持ちにつながった。

○ 3 月

- ・年長児は修了式の取組の中で幼稚園生活で楽しかった思い出を言葉にして伝えようとみんなで考えたり、自分の保護者へ伝えたい思いなどを個々で考えたりした。年少児は年長児へ送るお祝いの言葉を担任と一緒に考えて、年長児へ伝えられるようにした。気持ちを伝えるにはどういう伝え方をしたらいいかということにも意識して取り組むことができた。
- ・誕生会では、子どもたちが興味をもって集中して話を聞くことができるよう、担当の教師が季節や子どもの実態に合った遊びを準備した。また、誕生会の司会を年長児が役割分担をして挑戦した。年長児が司会の言葉を話すことで、年少児も憧れの気持ちを抱きながら見る姿もあり、集中して話を聞こうとする姿へとつながった。

取組内容③【施策 豊かな心の育成】

- ◎ 月 1 回以上、季節に応じた遊びができるように職員同士で連携し、幼児が伸び伸びと遊べるように環境を整えた。また、実態に応じ、一人一人が伸び伸びと自己発揮できるように環境構成を工夫した。そうしたことで、幼稚園生活に期待をもって登園し、興味や関心を広げながら、自己発揮できるようになった。

○ 4 月

- ・季節の草花を使って、季節の草花を使っていろいろな遊びが楽しめるように環境を工夫した。ペンダントやブレスレットをつくれるような場では、色や形など、自分なりに工夫して伸び伸びとつくることを楽しみ、つくったものを身に付けて遊ぶことを楽しむ姿が見られた。砂場や、園庭では、砂や泥の感触を楽しみ、形が作りやすいように、泥や砂に水を混ぜて環境を整えた。泥団子やケーキに摘んできた草花で飾り、ごちそうづくりにつながった。幼児同士が関わって遊べるように椅子や机、サークルを用意し、草花や実を近くに置いておいたことで、教師や友達とやりとりをしながらごっこ遊びを楽しむようになった。
- ・水に興味をもっている子が多かったので、安心して過ごし、水の心地よさを味わえるよう

に、テラスに色水遊びのコーナーを設けた。幼児が扱いやすい大きさ、数の道具を精選し、視聴覚素材を用いて何がどこにあるのかを分かりやすく表示した。小さいペットボトルの空き容器を用意し、それらを並べて色合いや濃度の違いを楽しんだり、ジュース屋さんごっこをしたりして楽しむことにつながった。また、冷凍していたサクランボの実や桜の花びらが入った氷を使い、色水に混ぜたり、つぶしてジュースにしたりして、色の美しさや氷の感触を味わうことができた。

○5月

- ・日差しが強い日に、幼児がつくった段ボールハウスや、大型積み木を日陰に設置した。年長児がままごとの道具やバスタオルを持ってきておうちごっこをしているうちに、足湯コーナーをつくったり、ミニコンサート会場をつくったりして、遊びが広がった。年少児も、遊びに加わり、足湯につかりながら舞台上で順に歌を歌うなどして異年齢で関わりながら一緒に楽しむ姿がみられた。
- ・心地よい風を感じながら存分に体を動かせるよう、園庭でかけっこをして遊んだ。鯉のぼりを用意し、一緒に泳ぐイメージで、持って走ったり、「こいのぼりタクシー」と言ってみんなで乗ったりして、走る心地よさを味わいいろいろな表現を楽しんだ。
- ・夏野菜について興味や関心をもてるように親子で夏野菜の苗植えを行った。また、いろいろな草花に興味や関心をもつことができるように花の植えをした。種の大きさや形を観察し、気付いたことを教師や友達に知らせ合い、毎日の水やりをしながら生長を楽しみにする姿が見られた。

○6月

- ・涼しさが感じられるように、スーパーボールすくいや魚すくいをして遊べる環境を整えた。塩ビ管やタライ、大型積み木などを置いておくと、友達や先生とアイデアを出しながら工夫して転がしのコースをつくらせて遊ぶことができた。魚すくいでは、取った魚を焼いたり、味付けをしたりしてバーベキューごっこにもつながった。
- ・自由に選んでつくることを楽しめるよう、様々な素材のコーナーを各クラスで準備した。年長児は、夏祭りのお店の看板や、ビー玉転がしのコースなどをつくり、年少児は、お弁当などの食べ物をつくった。自分たちでつくったものを夏祭りの場で、ゲームコーナーや休憩コーナーで使用し、お互いのつくったもので、異年齢で関わりながら遊び、夏祭りごっこを楽しむことができた。

○7月

- ・存分に水の気持ちよさを味わって遊べるように水遊びの環境を整えた。音楽をかけて水に親しんだり、ゲームをしたりして、楽しい雰囲気の中で行えるようにした。年少児は、プールに入ることに抵抗がある子もいたため、少しずつ水に慣れていけるように、ペットボトルでじょうろをつくったり、スーパーボールすくいをしたりした。年長児はスチレンの棒や、ビート板を用いて体を水に浮かせてバタ足をする姿がみられた。また、浮き輪や水鉄砲的、ビート板などの様々な道具を準備したことで、それぞれが水遊びを存分に楽しむことができた。

○8・9月

- ・存分に体を動かして遊べるように、大縄跳びや、サーキット遊び、リレー遊びなどができるように、遊具を準備し、環境を整えた。残暑が厳しかったため、園庭の日陰に遊具を出すだけでなく、遊戯室でも遊べるようにした。4歳児は、船や波をつくり、海の遊び場で波乗りをしたり、海の生き物になって遊んだりする表現を楽しんだ。5歳児は、『エルマーの冒険』の話をヒントに、体を鍛えてみんなで竜を助けに行くイメージをもち、縄跳びをしたり、和太鼓をたたいたりして、自己を発揮して遊ぶことを楽しんだ。また、運動会が終わった後も、運動会ごっこをして余韻を楽しんだ。年少児は、年長児を真似て、リレーや、太鼓をたたき姿がみられた。

○10月

- ・様々な素材にふれて遊ぶことを楽しめるように、各家庭から素材をもってきてもらい、種類別に分け、表示をしてコーナーを設置した。幼児が様々な素材を見て、組み合わせで遊んでいるうちに、イメージが湧き、自分のつくりたいものをのびのびと表現するようになった。また、素材は必要な時にすぐに取りにいけるように、保育室や遊戯室に素材の棚を設置したことで、幼児のアイデアや、意欲を刺激し、自分なりに形を考え、素材を選んで主体的につくっていた。

○11月

・焼き芋パーティーが印象に残り、幼児が枕木を並べ、そこに落ち葉を入れて焚火ごっこをしていたので、教師が新聞紙でサツマイモをつくった。幼児がそれを、焚火の中に入れて、トングでひっくり返すなどして、焼き芋を焼いたり、焼けた芋を手押し車に乗せて焼き芋を運んだりしていた。机や長椅子を並べたところ、焼き芋屋さんに発展し、紙で芋をくるんで渡したり、友達と一緒に、ベンチで買った焼き芋を食べたりする姿がみられた。また、年少児は他にも様々な食べ物をつくっていたので、それらを使って、ハンバーガー屋さんごっこをする姿もみられた。自分たちで考えて、インカムや、番号札など、遊びに必要なものをつくり、お店屋さんに成り切って遊ぶことを楽しんでいた。年長児が、お客さんになって店に遊びに来てくれたので、異年齢での交流を楽しむことができた。

○12月

・年長児と年少児の保育室の間に郵便ポストを設置すると、サンタさんへの手紙をかいて入れていた。文字に興味を持つ子が増え、教師と一緒に、文字を調べながら手紙をかいていた。また、誕生日会の時に使った、ソリをイメージした乗り物を園庭で遊べるようにした。代わりあってソリに乗ったり、引っ張ったりして遊ぶ姿へとつながった。また、たこあげができるように手作りだこをつくったことで、存分に戸外で体を動かして遊ぶことにつながった。

○1月

・正月遊びに親しめるように、コマやカルタ、ボードゲームなどを用意した。コマ回しは紐を巻いたり回転できるように投げたりすることが難しかったようだが、教師や友達と一緒に取り組んだことから“できるようになりたい”という気持ちが高まり、あきらめずに挑戦する姿がみられた。カルタやボードゲームなどでは、ルールを理解し、友達同士で約束事を確認しながら遊ぶことにつながった。

・劇遊びでのイメージがより広がるように、幼児と一緒に大道具づくりや小道具づくりを行った。背景や衣装を自分たちで作成し、遊びの中で活用したことから、友達とイメージを共有しながら、子ども同士で劇の台詞や動きを考えることにつながった。

○2月

・劇遊びがより充実するように、大道具の数を増やした。年少児は『キンコンかえるののどじまん』をテーマに、カエルが元気に池の中を遊ぶイメージを持ち、岩に見立てた巧技台からジャンプしたり、牛乳パックでつくった草を飛び越えたりして、カエルになりきって遊ぶことができた。年長児は『ジャックと豆の木』をテーマに、OHP等の機材も用いながら、ジャックが天まで上っていくところを表現した。

○3月

・友達と関わって遊べるように、短めの紐や、様々な色のフラフープを用意した。園庭ではしっぽ取りゲームや色鬼などをして、集団遊びをすることにつながった。

・相手の気持ちを思いやれるように、絵本や、表情のカードを保育室に置いておいた。各自で手に取って見たり、クラスで読み聞かせたりして内容に親しんだ。相手の気持ちが必ずしも自分と同じではないことを知り、自分の言動で相手が悲しくなっていないか、どんな言い方をしたらお互いに気持ち良く過ごせるのかを考える良いきっかけになった。

次年度の改善点

取組内容①

・災害発生時の危険状況を知り、指示に従って速やかに避難できるよう、引き続き約束の掲示物を貼ったり、日頃から遊びで整列をしたり話をよく聞ける力を育んだりする。また、安全教育に関心がもてるよう保護者啓発に励む。

取組内容②

・話の内容を理解しやすいように視覚的な教材を工夫して活用する。

取組内容③

・引き続き季節に応じて自己発揮できる環境を整えていく。

大阪市立旭東幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り開く学力・体力の向上】</b> <b>学校の年度目標</b> ○本年度の保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お子様は、まわりの人に進んで関わる力が育まれましたか」</li> <li>・「互いのよさに気付き相手を思いやる気持ちが育まれましたか」</li> <li>・「友達と関わる中で、考えたり工夫したりして一緒に遊ぶことを楽しんでますか」</li> <li>・「自分の健康に関心をもつようになりましたか」</li> </ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策3 幼児教育の推進と質の向上】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな友達と関わることを楽しめるように、保育内容の工夫を図り、人と関わる力を育てる。</li> </ul> 指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上、季節に応じた体操や仲良し遊びなどを取り入れた異年齢活動を考え工夫する。</li> </ul>	A
取組内容②【施策3 幼児教育の推進と質の向上】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関わりを通して、思いやりの気持ちをもったり協同して遊ぶ楽しさを味わったりできるような保育内容を工夫する。</li> </ul> 指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上、幼児の実態について話し合い、効果的な保育内容を工夫する。</li> </ul>	A
取組内容③【施策5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが健康について知り、自分や友達の体を大切にしようとする気持ちを持ち、規則正しい生活習慣が身につくように保健指導を行う。</li> </ul> 指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体のしくみを知り、健康へつながる規則正しい生活習慣が身につくように毎月保健指導を行う。（別紙2）</li> <li>・年間2回、保護者アンケートを行い、実態把握をしながら、保護者啓発を行う。</li> </ul>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<b>【年度目標】</b> について ◎関連する保護者アンケート調査（最終評価）では、目標を達成することができた。 肯定的な回答抜粋（％）		
項目	そう思う	やや思う
お子様は、まわりの人に進んで関わる力が育まれてきましたか	73	22
お子様は、互いのよさに気付き相手を思いやる気持ちが育まれてきましたか	73	23
お子様は、友達と関わる中で、考えたり工夫したりして一緒に遊ぶことを楽しんでますか	71	24
お子様は、自分自身の体や健康について関心をもつようになりましたか	68	23
幼稚園は健康に関心をもてるように保健指導を行っていますか	86	9

#### 取組内容①

◎園の特色を生かし、異年齢活動を通して人と関わる力が育まれるように月一回以上、保育内容を検討して、体操や仲良し遊びなどのふれあい遊びを取り入れた。回数を重ねる中で、親しみをもち進んで関わられるようになった。互いに名前を呼びあう姿も見られるようになった。

4月

○体操「どうぶつ体操1・2・3・」

入園して間もないゆき組に、ほし組が優しく声をかけ誘う姿が見られた。

5月

○体操「昆虫太極拳」 ふれあい遊び「フルーツポンチ」

虫が好きな子どもたちが多いことから昆虫太極拳を誕生会でも一緒に遊んだ。保護者同伴園外保育では、異年齢で遊んできた「フルーツポンチ」の遊びを保護者と一緒に行い好評であった。

6月

○盆踊り「アンパンマン音頭」

夏まつりに向けて盆踊りを一緒に踊ることを楽しんだ。今年度は和太鼓を出して、曲に合わせて太鼓を叩いて遊び盛り上がった。

7月

○体操「ラーメン体操」「エビカニクス」

プール前の準備体操の一環として、一緒に体操を楽しんだ。

9月

○パラバルーン遊び

みんなで散歩に行こうという共通のイメージをもち、バルーンをもって歩いたり横に動かしたり、曲に合わせてリズムを取りながら遊んだ。バルーンを膨らませて、ロケットやUFOをつくったり、かくれんぼをして中にはいたり様々な遊び方で楽しんだ。

10月

○体操「めっちゃげんき体操」「えがおのまほう」

運動会に向けて、一緒に体を動かして遊ぶことを楽しんだ。えがおのまほうでは手具を持って踊ったことで子どもたちも意欲的に取り組むことができた。

○体操「おいもの体操」

芋掘りや収穫祭に向けて、おいもの表現をして遊ぶことを楽しんだ。ペアになって遊ぶことで異年齢での交流も深まった。

11月

○手遊び「やきいもグーチーパー」

子どもたちはこの手遊びが好きで、両クラスで一緒になって楽しんだ。「またやろうな」と誘い合う姿も見られた。

○音楽会の歌「すきすきだいすき」「大阪うまいもののうた」「世界中のこどもたちが」

年長児が音楽会に向けて歌ってきた曲を、年少児に聞いてもらった。聞いたもらうことで自信も生まれ、意欲も高まった様子だった。また年少児も年長児の姿を見て憧れの気持ちをもつ姿へとつながった。

12月

○なかよし遊び「サンタさんとトナカイくん」

リズムカルな曲に合わせていろいろなポーズをして楽しんだ。子どもたちも大好きな遊びになったので誕生会でも異年齢で一緒に遊んだ。

1月

○ふれあい遊び「カップフレンズ」 手遊び歌「たこやきいっこ」

「カップフレンズ」は子どもたちも大好きな遊びで、異年齢で3人組になって一緒に遊んだ。支援の要する子どももこの曲が流れると笑顔になり、お兄さんお姉さんに優しく接してもらうことで、嬉しそうにする姿が見られた。

「たこやきいっこ」は年長児が音楽会の時に他園のチームが歌っていたことで耳なじみもあり楽しんで歌う姿があった。年少児も数字に興味をもっている子が数名いたので、歌詞の中に数字が出てくるのを喜んでおり子どもの実態にあっていたように思う。

2月

○「誕生月仲間」

ピアノの音に合わせて異年齢でみんなで楽しんだ。今年度最後の誕生会でも園児と教師、参加していた保護者も一緒になって遊び、盛大に盛り上がった。

取組内容②

- ◎週1回以上幼児の実態について話し合い、友達と関わり遊ぶ中で思いやりの気持ちがはぐくまれたり、協同して一緒に遊ぶ楽しさを味わったりできるように保育内容を工夫した。
- ・幼児の興味や関心に応じ、その都度環境を再構成していくことで、遊びが広がり、いろいろな友達や教師と関わりながら、遊ぶ楽しさを味わうことにつながった。また、環境を再構成していく中で、幼児の姿や教育的意図をもった働きかけについても共通理解することができた。
  - ・入園当初は、年長児が朝の用意や弁当の準備など初めてすることを分かりやすく教えてあげる機会をもつことで、親しみを持ち、憧れや思いやりの気持ちをもつことにつながった。
  - ・夏祭りでは、友達と一緒に遊びを共有する中で、協力しながらかいたりつくったりすることを楽しみ、お店屋さんごっこでは、異年齢でお互いの役割に分かれて交流する中で、思いやりの気持ちをもって、やりとりする楽しさを味わう姿も見られた。年長児は、共通の目的を持ち、お店の看板づくりをすることができた。
  - ・運動会では、仲良しパラバルーンに挑戦した。異年齢で隣同士になり、バルーンを持って歩いたり、上下に揺らしたりと気持ちを合わせて取り組む姿があった。カウントをとって、バルーンが大きく膨らんだ時には、歓声が上がリ、協同して遊ぶ楽しさを味わった。
  - ・園外保育に向けての遠足ごっこでは、異年齢でペアになり、手をつないで歩いたり、一緒にお茶を飲んだりした。ペアの友達に親しみをもって、優しくレジャーシートの畳み方を教えてあげる姿も見られ、関わりの中で思いやる気持ちをもつことができた。
  - ・作品展では、年少児は共同で看板製作に取り組んだ。大きな模造紙にみんなで協力して、伸び伸びとスタンプングする楽しさを味わった。年長児は、大きな段ボールをライオンに見立てて、協力して色を塗ったり、たてがみの三つ編みをつくったりと、イメージを共有しながら一緒に作る楽しさを味わった。
  - ・生活発表会では、お話の世界のイメージを広げて遊べるよう、大道具や小道具をつくった。つくったもので遊ぶ中で、友達と共通のイメージをもって、登場人物になりきり、セリフのやりとりをしたり、いろいろな表現遊びをしたりする楽しさを味わった。

取組内容③

- ◎月1回、幼児の実態や発達段階、時期に応じて工夫した保健指導を行うことによって、健康に関心をもったり、自分や他人の体を大切にしようとしたりするようになった。
- 保健指導の内容については、別紙「年間の計画（保健指導）」に記載した。（別紙2）
- ・保健指導で使用した教材や保護者啓発に使用した掲示物を保育室や保健室の近くに掲示することで、興味をもった子どもたちと保健指導の内容を振り返ることができた。また、養護教諭や教諭が継続的に声かけを続けることで、保健指導の内容を実践しようとする意識が維持されていた。
  - ・夏季休業中に、歯みがきの習慣を定着させるために「歯みがきカレンダー」を配布した。幼児の自己肯定感を高め、より健康に関心をもつことができるようになるために、保護者に一言コメントを記入してもらい欄を設けた。一言コメントに、毎日丁寧に磨くことができたことや外出して歯みがきができないときに気にするようになったという声があり、「歯みがきカレンダー」を通して、歯の健康を保とうとする意識ができてきていることが伺えた。
  - ・10月の保健指導後から、弁当の中に入ってる野菜（年長組はきのこ類、海藻も含む）みつけを5回行った。野菜みつけを行うことによって、弁当の中に入っている食べ物に興味を持ち、どんな野菜が入っているかを友達同士で話す姿が見られた。また、年長組では見つけた野菜にクラスや個人で印をつけられるように野菜の名前を書いた表を用意したことによって、今までとは異なった種類の野菜を弁当の中に入れてもらい、いろいろな野菜を食べることにつながった。
  - ・冬季休業中に「手洗いうがいカレンダー」を配布し、休業期間中も丁寧に手洗いうがいを

するよう呼び掛けた。保護者のコメントから、自ら進んで手洗いをするようになったや丁寧に手洗いをする姿が増えた、手洗いを忘れていたときにすぐにするようになったなどの声があり、丁寧に手洗いをする習慣が身についてきていることが分かった。

◎保護者啓発について、以下のことを行った。

○5月に幼児と保護者に向けて、歯の生え変わりについて、歯みがきについての保健指導を実施した。子どもが歯みがきの練習をしている様子を正面から見てもらい、歯ブラシの角度や手の動かし方を伝えた。また、保健指導後に歯みがきの順番を記載した手紙を配布し、家庭でも丁寧に歯みがきができているか見守ってもらったり、仕上げ磨きをしたりするよう伝えた。

○保健指導後、降園時に保護者向けに保健指導の内容や家庭で心掛けてほしいことを伝えた。また、掲示物やほけんだよりに保健指導の内容や写真を記載し、家庭で情報共有ができるように取り組んだ。

○保健指導で絵本を使用したときには、保護者や子どもに貸し出しを行った。

○1学期の終業式の前に、保護者向けにその学期で実施した保健指導に使った教材を見せながら振り返り、内容ごとに家庭で意識してほしいことを伝えた。

○保健指導後の家庭での様子を把握するために、1学期終了後、2学期終了後、3学期末に保護者アンケートを実施した。

・4月のアンケート結果より

帰宅後や食事の前後にしっかり手洗いをするようになった、ポーズを覚えてひとつずつ丁寧に擦るようになったという声があり、今後も、丁寧に手洗いうがいができるように、担任と連携して声掛けを続けていく。また、手洗いが終わった後にハンカチやタオルで丁寧に拭く大切さも伝えていきたい。

・5月のアンケート結果より

鏡を見て自分の第一大臼歯が生えてきていることを喜んだり、歯が生え変わることを待ち遠しくしたりしていた、自分から歯ブラシを持って磨くようになった、歯みがきの順番が書いてあるプリントを見ながら丁寧に磨くようになったなどの声があり、歯みがきの習慣が身につきつつある。幼稚園でも昼食後の歯みがきを丁寧にやるよう声かけをし、歯みがきの習慣を継続していきたい。

・6月のアンケート結果より

家庭でもプライベートパーツの話をしたり、大切な部位は自分で洗うようになったりした、プライベートパーツはまだ難しいようであるなどの声があり、プライベートパーツについての理解には個人差がみられるが、今後も家庭と連携して声掛けを続けることでプライベートパーツを守る大切さを伝えていきたい。

・7月のアンケート結果より

喉が渇く前に水を飲むようになった、帽子を嫌がるが多かったがきちんと被るようになった、「危険」だから早く家に帰ろうと話をしていたなどの声があり、熱中症を予防しようとする意識がついてきている。今後も、水分補給をするよう繰り返し声かけをし、どの季節でも水分補給するよう定着させたい。また、暑いときには、顔を洗ったり、衣服を着替えたりすることも熱中症の予防につながることを知らせていきたい。

・9月のアンケート結果より

友達に「走ったら危ないよ」と声かけをしたり、けがをしてしまったときにそのままにしておくのではなく、水で傷を洗ったりする姿が見られるようになったなどの声があり、けがをしないようにする意識がついてきている。引き続き、安全に過ごすよう声かけをしたり、けがをしてしまったときには教師に知らせたりする大切さを伝えていきたい。

・10月のアンケート結果より

野菜調べを楽しそうに取り組み、お弁当の中に入れてと言い、頑張っていた。弁当にどんな野菜が入っているのか聞いたり、弁当に入れる野菜をリクエストしたりするようになり、食へ興味が高まっているように感じた。また、苦手な食べ物や野菜にも挑戦するようになったり、一緒に料理を作りたいというようになりしているなどの声があり、食への関心が高まっているだけでなく、食べてみたいややってみようという意欲も出てきていることが分かった。今後も、いろいろな食べ物を食べている姿を認めたり、褒めたりしながら食への関心を広げていきたい。

- 11月のアンケート結果より  
家庭でもくしゃみをするときに口を押えたり、声かけをすると自分で鼻をかむようになってきた。また、鼻をかむのが上手くなった。気温や天候を意識しながら自分で朝の身支度をしようとする姿も増えたなどの声があり、病気にならない体づくりが身についてきている。幼稚園でも、衣服の調節をするよう声かけをしたり、咳エチケットや鼻をかむことを意識させたりして、健康に過ごすことができるようにしていきたい。そして、手洗いうがいを丁寧に行うよう、継続して声かけをしていきたい。
- 12月のアンケート結果より  
朝から元気に朝ごはんを食べるようになった。便に興味をもち、どんな形の便が出たかを確認したり、良い形であることを喜んだりするようになったなどの声があり、自分の健康への関心が高まっている。今後も、健康的な生活を送るために、朝ごはんを食べたり、便を見たりする習慣をつける大切さを伝えていきたい。
- 1月のアンケート結果より  
食事の時間に気を付けて正しい姿勢で食べる様子が見られるようになった。体幹をしっかりするためのポーズを遊びで取り入れようと思ったなどの声があり、正しい姿勢を意識する気持ちが高まっていることを感じられる。幼稚園での食事の際に、足の裏が床についていない子どももいるので、足の裏で体を支える大切さを伝え続けたい。
- 2月のアンケート結果より  
自分の気持ちを言葉で伝えることが上手くなってきている。思っても口に出して良いことかダメなことかを考えながら伝えていくとすることがある。入園時より、自分の意志や嫌なことは嫌と伝えられるようになってきているなどの声があり、心の健康や言葉の使い方について難しい面もあるが、子どもたちなりに考えながら過ごしていることが分かった。日々の生活の中で、心の健康や言葉の使い方を繰り返し伝えていきたい。
- 3月のアンケート結果より  
1年間の変化について、トイレの使い方など1つ1つの生活が丁寧になった。歯みがき・手洗いなどを自分からするようになった。外から帰ると「ばい菌がついているから！」と丁寧に洗う姿が増えた。子どもなりに興味をもち、説明したり、実践したりする姿が見られた。日にちが経つと忘れることもあるが、ふとした瞬間に思い出し、気を付ける姿に成長を感じるなどの声があり、健康に関心をもったり、自分や人の体を大切にしようとしていたりする様子が伺えた。

#### 今後の改善点

##### 取組内容①

- 次年度も異年齢での交流を深められるように実態や季節に合わせた教材を研究し実施していく。

##### 取組内容②

- 子どもたち同士で思いを出し合い、考えたり工夫したりできる保育内容の工夫を職員で話し合い進めていく。

##### 取組内容③

- 引き続き、子どもの実態や発達段階に応じて指導内容を工夫し、健康へつながる規則正しい生活習慣が身につくよう、担任や保護者と連携しながら保健指導を行っていく。
- 家庭でも指導内容が共有できるようにするために、降園時に指導内容を伝えたり、掲示物やほけんだよりを活用したりすることで保護者啓発を図っていく。

大阪市立旭東幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>学校の年度目標</b> ○本年度の保護者アンケート調査で、次の項目について、「そう思う」「やや思う」の回答を90パーセント以上にする。 ・「地域や保護者に開かれた幼稚園づくりに努めていますか」 ・「幼稚園の教育を分かりやすく伝えていきますか」	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 ・地域や保護者に開かれた幼稚園づくりを推進する。	A
指標 ・教育内容を分かりやすく発信するための方法を工夫する。 ・就学前教育カリキュラムを活用した保育内容や取組、子どもの育ちを知・徳・体の視点から分かりやすく保護者に発信していく。(月1回) ・身近な人との関わりを深められるように、行事の見直しを図る。	
取組内容②【施策9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 ・教員の資質向上を図る。	B
指標 ・月1回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、保育内容について話し合う。 ・園内研究保育を実施し、保育の質の向上につなげる。(年間8回以上)(別紙3) ・就学前教育カリキュラム改訂版及び幼稚園教育要領、大阪市立幼稚園参考教育課程を基に、学期に1回、教育課程を見直す。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について  
 ○関連する保護者アンケート調査(最終評価)では目標を上回り達成することができた。  
 肯定的な回答抜粋(%)

項目	そう思う	やや思う
幼稚園は地域や保護者に開かれた幼稚園づくりに努めていますか	91	4
身近な人との関わりを深められるように行事を工夫していますか	86	9
幼稚園は、園の教育方針や教育内容をわかりやすく伝えていきますか (クラスだより・降園時の話や写真掲示・保護者会など)	91	9

取組内容①  
 ◎地域や保護者に開かれた幼稚園づくりを推進するために以下のことに取り組んだ。  
 ○幼稚園の教育内容を分かりやすく発信するために毎月のクラスだよりや保護者会にスライドショー、1学期や2学期の活動をまとめた物を始業式で掲示するなどした。幼稚園の

取組や日頃の子どもたちの遊びを楽しんでいる様子を知らせる工夫をしたことで保護者も具体的な様子を知ることができて好評であった。

- 家庭訪問や個人懇談、日々の降園連絡の時に保育内容や子どもの様子や育ちについて保護者へ発信した。特に降園連絡ではその日の活動内容や子どもの様子など具体的に知らせるようにした。全体に向けての発信だけではなく、必要な場合は個別に声をかけ、話す機会を設けたり電話での対応を丁寧に行ったりしたことで、幼稚園での子どもの様子をより保護者へ発信することができた。
- 特に行事前は取り組む中での子どもの様子や過程をより丁寧に、また当日を迎えるまでの積み重ねてきたことを伝えられるようにした。幼稚園では行事を迎えるまでの過程も当日と同じように大切に思っているということが保護者に伝えられるように、普段の保育の中での子どもの様子を話しするように心がけた
- 毎月、保育参観や保護者参加の行事を実施した。季節や実態に応じた保育内容を考え工夫したり、実際に幼稚園での姿を見てもらったりしたことで、その時期に大切にしている教育内容を保護者に伝えることができた。今年度は同時にアンケートをとるようにし、保護者からの意見や感想を伺うように努めた。(別紙3)

#### 取組内容②

◎職員の資質向上のために以下のことを行った。

- 週に2回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、保育内容について話し合うことができた。
  - ・話し合いを積み重ねていくことで、具体的に知・徳・体のねらいを明確にし、見通しをもち保育を進められるよう意識することができた。子どもが、工夫して遊んでいる姿を周りの子どもたちにも発信し、友達同士をつなげる言葉掛けの工夫をしたり、遊びの振り返りを行う際に、友達の良さに気付けるよう投げかけたりするなど、教師の教育的意図をもった働きかけの工夫につながった。
  - ・就学前教育カリキュラムを活用し、毎月の幼稚園だよりでは、知・徳・体の視点から、各学年のねらいを入れている。ねらいを明確にすることで、保育の中で意識して取り組もうとすることにつながった。又、毎月のクラスだよりでは、そのねらいを受け、具体的な子どもの姿と結び付けて、子どもの育ちを読みとれるように意識した。
- 年間計画に基づき6月に2回、8月に1回、9月に2回、10月に1回、11月に2回、12月に1回就学前教育カリキュラム改訂版及び幼稚園教育要領、大阪市立幼稚園参考教育課程を活用し、園内研究を行い、子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけについて分析し、検討した。
  - ・保育後の検討会では、様々な視点から意見しあうことで、子どもの実態把握や教師の働きかけについて、具体的に考えることができ、職員一人一人の幼児理解へとつながり、各々の資質向上につながった。(別紙4)
- 学期始めと、学期終わりに、教育課程の見直し及び検討を図った。
  - ・学期ごとに、生活や行事などの見通しをもち、子どもの実態に応じた活動になるよう話し合うことで、意識して保育に臨むことができた。

#### 今後の改善点

#### 取組内容①

- ・次年度も保護者や地域に向けて、教育内容を分かりやすく発信するために、方法を工夫し具体的に伝えられるようにしていく。

#### 取組内容②

- ・今後も引き続き、教職員同士の話し合いの場を設け、常に幼児実態把握に努め、見通しをもった保育を行えるようにしていく。